

2011.12.19 (月) 朝日新聞

国重文古民家で 磁器と光の芸術

大学生と陶芸家コラボ
国の重要文化財になって



いる古民家に現代アートを置くことで新しい空間をつくりだす試みに、インターネットを勉強している女子大生と陶芸家が挑んだ。協力してオブジェを制作し、18日から一般公開を始めた。

和歌山市岩橋の紀伊風土記の丘に移築されている「旧柳川家住宅前蔵」。薄暗い2階の一角に据えられた約1・4平方メートルの台の上に、高さ3〜15センチ程の箱形の白い磁器が無造作に並ぶ。磁器の数は約300。中から豆電球で照らされ、磁器から透ける黄色い光が、暗がりにはわっと広がる。

企画したのは、和歌山信愛女子短大で生活文化を専攻する学生13人と、非常勤講師を務めている紀美野町在住の陶芸家井沢正憲さん(40)。授業で2カ月間にわたって制作に取り組み、学生たちが磁器用の土で形を作り、井沢さんが窯で焼いて仕上げた。

林亜依美さん(20)は「磁器から透ける光のあたたかさと、木造の古民家を持つ暖かみがいまって、心地よい空間をつくれた」と話した。展示は25日までの午前10時〜午後4時。入場無料。19日は休館。問い合わせは同短大(073・479・3330)へ。

(山野拓郎)